

イラク小児心臓手術（成功）

5月19日期待と不安の中で関西国際空港に降り立ったサジャドちゃんとアリアちゃんは手術が無事に終了し、3カ月の入院生活を終えて、8月17日に両親たちと一緒に元気に中部国際空港からイラク・バグダッドに向けて帰国の途につきました。

前号でご紹介したように男児サジャドちゃん(5才)は「完全大血管転位症」、女児アリアちゃん(2才)は「ファロー四徴症」という生まれつきの心臓障害をもっており、手術は国立循環器病センター(吹田市・北村総長)で行われました。



帰国の途につくサジャドちゃん(左)とアリアちゃんとお父さん



患者をお見舞い訪問したイラク大使夫人(中央)と北村総長

2児の両親は病院の前にあるマクドナルドハウスに宿泊しましたが、明るい親しみやすい性格からハウスのボランティアの方や、宿泊家族たちとすぐに溶け合い、アラビア語を教えたり、アラブ料理を一緒に作ったりしてすっかり仲良くなり、国際交流も出来たようです。

この事業を通して、資金を提供いただいた「明美ちゃん基金」(産経新聞社)及び手術を行った国立循環器病センターに感謝すると共に、混乱が続くバグダッドからアンマンまで患者や家族たちの脱出に尽力してくれましたProject HOPE米国のイラク担当Mr. Garber Fredや

イラク人仲介者の影の努力を忘れることはできません。

いつの日かイラクに平和が戻りサジャドちゃんとアリアちゃんが大人になった時、日本の人々への感謝の思いがきっと蘇ってくることと思っております。

巻頭言 / 希望に向けて



PHJ 運営委員
澤田 澄子

キャノン株式会社
社会貢献推進室

私がPHJの運営委員にならせていただいたのは2005年12月からで、社会貢献を担当するようになって4ヶ月ほどたつてからでした。異動して社会貢献をどのように進めて行くべきかなどなど、いろいろと考えていた時期から現在に至るまで、大変勉強させていただいています。

PHJの大きな魅力は、「医療支援を通じて自立を助ける」という活動目的が明確であること、組織がしっかりしているということだと思います。理事会が年に1回、また運営委員会が3ヶ月毎に開催され、活動方針やタイ、インドネシア、カンボジアで実際に活動していらっしゃる現地事務所の所長さん達の報告を直接お聞きすることができるなど、透明性も確保されています。これらの会合では、具体的な現場での状況を知ることができ、私にとっては特に貴

重な経験となっています。社会貢献は地道な積み重ねが基本であるということは頭ではわかっているつもりですが、運営委員会で、現地で必要とされることは何か、本当に役にたつことは何かということ踏まえ着実に活動を行っていらっしゃることを知り、現場の大切さも再認識しています。昨今、社会的課題の多様化、複雑化が進み心痛む情報に接する機会も増え絶望的な気持ちになることもあります。一歩ずつでも着実に歩を進めることから、明るい道筋が見えてくるのだと実感できる機会でもあります。

2005年には、PHJが米国の本部から独立し、ピープルズ・ホープ・ジャパンという名称に変更されたこと、そして設立10周年を迎えられたことに新たな期待を感じています。文字通り人々(ピープル)の希望に向けて、これまでの蓄積・ノウハウを生かして日本発の貢献活動が行われることは、とても楽しみです。様々なプログラムの中で実効性に高いものなどをPHJメソッドというような形で一般化し、いろいろな地域に広げて行く等、点から面への展開も期待したいと思います。今後も現地の方々の文化を尊重しつつ、PHJの活動が更にしなやかに、かつ力強く発展されることを祈念しております。

タイ報告

2000年度よりタイ国チェンマイ市で実施してきたHIV/AIDS感染予防教育事業は、大きな成果を収めました。前号でご報告しましたが、PHJではこの事業を優れた成功事例とノウハウの蓄積(Center of Excellence)のひとつとして今後タイ国内他地域や近隣国に展開していきます。この展開の中心を担うのが「AIDS予防教育センター」です。

今回は、タイ国内での横展開、チェンマイ州北部のチェンダオ郡で新たに始まったHIV/AIDS感染予防教育事業の様子を報告します。チェンダオ郡はチェンマイ市から約70キロ北の人口は約8万5千人です。

事業実施に先立ち、PHJは地域の青少年のHIV/AIDSについての理解度を把握し、地元保健局との協議を重ね、事業計画を作成しました。その上でまず、チェンマイ市での事業でPHJ専門家が養成した大学生のスタートレイナー37名が先生役となり、チェンダオ郡の中学生と高校生を対象にワークショップ形式でピア・エ

デュケーションを実施しました。そして、このワークショップに参加した中学生や高校生がそれぞれの学校で企画立案し、クラスメート約1800名を巻き込んでのHIV/AIDSの教育活動を展開しました。企画では、HIV/AIDS予防のメッセージを記した横断幕を先頭に町に繰り出し、学校で写真展を開催し、その場に集まってきた同世代の学生にHIV/AIDS予防の大切さを訴えました。(大谷)



HIV・AIDS予防の横断幕を先頭に行進する学生達

カンボジア出張報告

～診療所所長インタビュー～

7月下旬、カンボジアに事業の応援と成果の確認に行ってきました。PHJは、このカンボジアはコンボントム州で2005年度より「診療所機能強化プロジェクト」を実施してきました。この事業では、地域での母子保健の鍵を握る診療所での母子保健サービス向上を目指しています。

私たちがこの事業を実施する上で、診療所スタッフや村のボランティアといった地元の皆さんとの協力は不可欠です。今回は、私たちが活動している診療所のひとつ、コンボンスバイ診療所所長の声を紹介したいと思います。この診療所で、PHJが支援してきた診療所のなかでも妊婦健診等の母子保健サービス全般が著しく向上した診療所です。

——診療所が実施した妊婦健診数は、PHJ支援開始前の2004年度には103件だけでしたが、2006年度には200件とほぼ倍増しました。その理由は？

「PHJの村での母子保健教育活動のお蔭です。私は、この教育活動に村のボランティアと一緒に参加し、村人に診療所での妊婦健診の重要性を一所懸命伝えました。このため、少しずつですが村の妊婦さんが診療所に来るようになりました。そして、村の妊婦さんに、診療所でしっかりした妊婦健診を提供するように心掛けました。このように、しっかりした母子保健サービスを提供すれば、健診を受けた妊婦さんの口コミで、診療所の良さが村人に知れ渡ります。これが妊婦健診増加の理由だと思います。」



診療所サービスについて語るコンボンスバイ診療所所長

——所長が心掛けている母子保健サービスとは？

「母子保健サービスでは、医療技術と患者さんへのある種の接客態度が大切だと思います。そういう意味で、PHJのトレーニングは効果的でした。というのもPHJのトレーニングには医療技術と接客態度についてのOn-the-Job Trainingがあるからです。」

PHJの支援が、診療所をはじめ地元の皆さんとの協力を通し、事業目標である「診療所による母子保健サービスの向上」の具体的な成果を出していることを確認しました。母子保健分野での事業は地道な活動ですが、次世代に繋がるお母さんと赤ちゃんの命を守る意義ある活動です。どうぞ、皆さまの温かいご支援をこれからも宜しくお願いします。(石関)

インドネシア口腔保健教育

～バリ州での口腔保健教育事業に参加して～

歯科医師 佐間敏信

ピープルズ・ホープ・ジャパンが1999年10月からバリ州で主に小学生と保護者を対象に口腔保健教育事業を実施され、着実に成果を挙げていることについて、この事業に関わった歯科医師の一人として敬意を表します。

私はPHJインドネシア伊藤所長に招かれ、この口腔保健事業の中の現地歯科医師への技術伝承事業のために、専門家ボランティアとして2002年5月と07年6月の2回「歯牙外傷歯の処置」「歯牙移植術」「歯槽骨骨折



佐間先生と子供達

の処置」等の講演と実習を行い、抜歯ケースの多い現地で、歯牙を抜かずに保存する種々の方法を説明しました。延べ200人を上回る現地歯科医師が参加して、術式に関する多数のQ&Aがなされ、私にとってもまたとない大変有意義な経験をしました。

現地では、1本の歯を失ったことから次々と他の歯を失う結果になった症例をしばしば経験しました。歯を失って初めてその必要性を強く感じる人が多いようです。

言うまでもなく、歯は食するため、人とのコミュニケーションを行うための重要な構音器管の一部です。また味覚にとっても重要な因子です。顔の審美に対し口元を作る歯は非常に大切です。近年口腔内の細菌が全身に及ぼす影響が問題となっています。人間は他の動物と異なり歯が無くても生きることは出来ます。しかし人間が求めるQuality of Life(QOL)の向上には歯は欠くことが出来ない因子です。

PHJが口腔保健の重要性に着目して、バリ州の小学生累計8万人とその保護者を対象に8年間に渡って展開されている地道な活動は可能ならば今後も継続されると共に、このモデル事業を他の地域へもそれぞれの地域特性を考慮した活動が展開され、地域住民のQOL向上に寄与されることを口腔衛生に携わる専門家として強く希望します。

インドネシアCT教育

昨年3月インドネシア・バリ州のギャーニャー病院に寄付しました全身用コンピュータ断層撮影装置(CTスキャナ)の有効活用を目的とした放射線技師教育を6月に実施しました。これまでに医師教育は2回実施しましたが、日本の放射線技師による現地での教育はなかなかチャンスがなく「とにかくCTを稼働させてCT撮影をすれば良い」というのが現状でした。今回、聖マリアンナ医科大学病院画像診断センターから吉川先生が研修担当を引受けてくれることになり、6/17から6/27まで現地での技師教育を実施することができました。

CTスキャナには多くの機能がありますが、残念なことに現地病院には他の医療器材が十分に備えられていません。従って、「CTの性能と病院にある限られた医療器

材でどのように撮影効果を最大限に引き出すか？」という難しい課題について吉川先生から技師たちに指導していただきました。さらに放射線の基礎知識や事前の心得としての患者への「気配り」等も指導されました。

インドネシアはひと昔前の日本のように医師と技師の間に立場上、大きな開きがあり信頼関係に立った良いコミュニケーションが取れていないのが現状です。また、医師自体がどのようなケースにCT撮影が必要なのかを十分に理解していないという課題もあります。技師のレベルを上げて良質の読影画像を撮り、医師が的確な診断が出来るようになることが大きな課題でしたが今回の現地教育でその目的に近づくことが出来ました。

ギャーニャー病院にはCTスキャナの他に超音波診断装置などの画像医療機器も寄付しておりますので、画像診断教育は今後も継続する予定です。これからもPHJが寄付した画像診断機器類が有効活用されることで1人でも多くの患者が救われることを期待しているのと同時に、「ギャーニャー病院を東インドネシア地域のモデル病院に育てる」という目標に向かって努力していきます。

(横尾)



画像撮影に取り組む病院技師



吉川技師と活発な質疑応答

● FY2007報告およびFY2008計画 ●

2007決算および2008予算

(単位：円)

科 目	2007決算	2008予算
I. 収入の部		
1.現金寄付	85,235,675	81,000,000
法人	65,524,265	62,800,000
個人	8,215,500	8,600,000
Partner	2,127,000	2,200,000
一時寄付	9,368,910	7,400,000
2.商品寄付	666,840	
3.公的補助金	50,000	6,200,000
4.利子その他	208,977	
5.為替換算差	737,369	
当期収入(現金)	86,232,021	87,200,000
当期収入(商品)	666,840	
当期収入合計(A)	86,898,861	87,200,000
前期繰越(現金)	53,364,893	50,382,671
(商品)	2,000,000	
収入合計(B)	142,263,754	137,582,671
II. 支出の部		
1.事業費	69,352,186 (75.4%)	75,600,000 (76.8%)
現金	66,685,346	75,600,000
商品	2,666,840	0
2.募金活動費	13,459,070 (14.6%)	13,500,000 (13.7%)
人件費	8,870,000	8,500,000
経費	4,589,070	5,000,000
3.管理費	9,069,827 (9.9%)	9,400,000 (9.5%)
人件費	2,370,000	2,400,000
経費	6,699,827	7,000,000
支出合計(C)	91,881,083 (100%)	98,500,000 (100%)
現金	89,214,243	98,500,000
商品	2,666,840	0
III. 次期繰越(B-C)		
1.現金	50,382,671	39,082,671
2.商品(在庫)	0	0

2007事業費内訳(現金+商品)

(単位：円)

支援事業	現金	商品	合計
タイ	17,637,024		17,637,024
インドネシア	29,262,911	1,666,840	30,929,751
カンボジア	17,471,700	1,000,000	18,471,700
イラク	621,587		621,587
10周年記念事業	1,692,124		1,692,124
計	66,685,346	2,666,840	69,352,186

2007年度(2006.7.1～2007.6.30)活動報告

本年度はPHJ創立10周年の記念年にあたり、2006.8.24に「感謝の集い」を開催しました。その内容は五月女NGO大使の基調講演につづき、海外3所長から事業報告を行った後、パーティでも海外ブースに海外所長が立ち、出席者との会話に重点を置き良い評判を得ました。(出席者137名)また10周年記念誌を発行しました。

1. 募金活動

当期募金は、計画7720万円に対し実績8780万円と好調でした。この内「10周年記念募金」が法人・個人から計1364万円と大きかったです。補助金は、計画1000万円を未達でしたが、この原因はインドネシア政府からのMOU遅れによるもので、2007年4月に承認を得ましたので2008年度にチャレンジします。

2. 支援活動

支援活動は引き続きタイ・インドネシア・カンボジアでの健康医療支援に注力しています。

タイではエイズ予防教育・子宮頸がん予防教育・HOPEパートナー事業・小児心臓手術を、インドネシアでは、口腔衛生教育・母子健康プログラム・CTフォローアップ教育を、カンボジアでは母子保健サービス・助産師トレーニング・超音波画像診断技術教育を行いました。また10周年記念事業としてタイに「AIDS予防教育センター」を設立し、タイで培ったAIDS予防教育をアジア各地へ展開する拠点としました。

災害復興支援としましては、ジョグジャカルタ地震により、甚大な被害を受けたバントウル郡内の2ヶ所の保健出張所の復旧支援事業を完了しました。

支援活動は、タイは順調に推移しましたが、インドネシアはMOUの再締結遅れのため、カンボジアはスタッフ交代のため、いずれも支援活動に遅れが生じました。すでに双方とも解決したので2008年度にピッチを上げます。

また先天性心臓奇形に苦しむイラク小児患者を日本に呼び、産経新聞「明美ちゃん基金」と国立循環器病センターと連携し手術成功しました。イラクから患者2人と両親・主治医の計7人が5月に来日、6月に手術は無事終了して、8月に帰国しました。

2008年度(2007.7.1～2008.6.30)事業計画

タイ・インドネシア・カンボジアで従来事業を継続発展させます。タイでは前年に引き続きチェンマイ県とその近隣県で、地元や学校内で予防啓発活動で発揮し成果を挙げているピアエデュケーター活動と教師によるコミュニティー活動に注力します。昨年度末に設立した「AIDS予防教育センター」実行計画に具体的に反映し、実施に移します。インドネシアでは母子健康プログラムの一環として、診療所敷地内に深井戸を掘削し、太陽電池駆動のポンプで揚水し、清潔な水の確保をすることにより特に母子の健康を確保する計画です。肝炎事業も開始します。

カンボジアでは、診療所機能強化の成功例を横展開するとともに、助産産師トレーニングも継続します。

監査報告書

ピープルズ・ホープ・ジャパン

理事長 甲谷 勝人 殿

私はピープルズ・ホープ・ジャパンの2007年度の事業報告書および決算書を監査した結果、いずれも適正妥当なるものと認めます。

2007年8月2日

監事 吉村 文吾

第12回理事会

8月23日(木)経団連会館会議室で第12回理事会が開催され、2007年度の事業報告・決算報告、2008年年度の事業計画・予算及び役員一部改選が討議され、すべて承認されました。

インドネシアでは、2つの事業が新しく追加されます。

①水事業(診療所敷地内に深井戸を掘削して清潔な水の確保から母子の健康を守る。)

②肝炎事業(B型肝炎が人口5%、適切な肝炎治療の提供を目指して、技術移転と診断設備の支援実施)

また、理事会にはタイ駐在の大谷暁子さん、インドネシア駐在の伊藤美夏さん、カンボジア駐在の中田好美さんも、出席して、現地の報告を理事の皆さんに行いました。

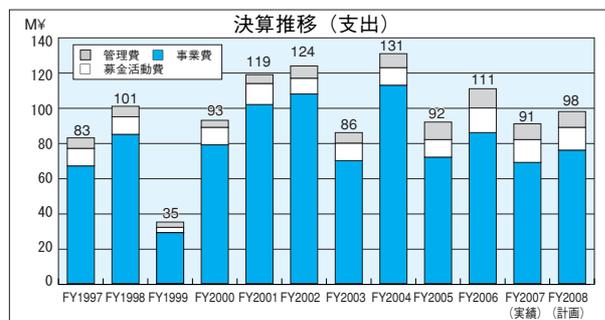
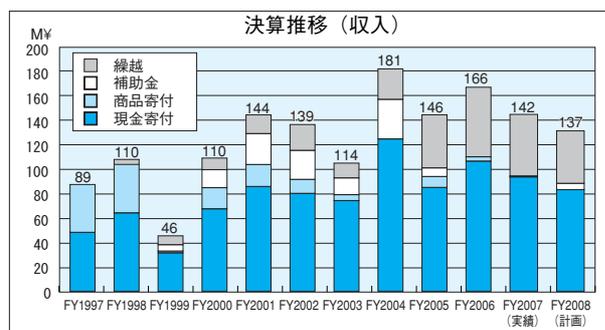


ピープルズ・ホープ・ジャパン役員

(敬称略、50音順)

理事長	甲谷 勝人	アジレント・テクノロジー 相談役
副理事長	田中 滋	慶應義塾大学 経営大学院 教授
理事	安西 祐一郎	慶應義塾 塾長
〃	伊藤 伸彦	日本ゼネラル・エレクトリック社長
〃	枝村 純郎	元駐ロシア・駐インドネシア大使
〃	後藤 幸子	武蔵野市民
〃	佐々 英達	全日本病院協会 名誉会長 (佐々総合病院理事長)
〃	森田 清	日本製薬団体連合会 会長 (第一三共株式会社 会長)
〃	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学 教授 放射線医学教室
〃	松本 謙一	日本医療機器産業連合会 特別顧問 (サクラ精機会長)
〃	溝口 文雄	横河電機 常勤監査役
〃	須見 彰	ピープルズ・ホープ・ジャパン 代表
監事	吉村 文吾	AIG 会長

11年間の活動を振り返って

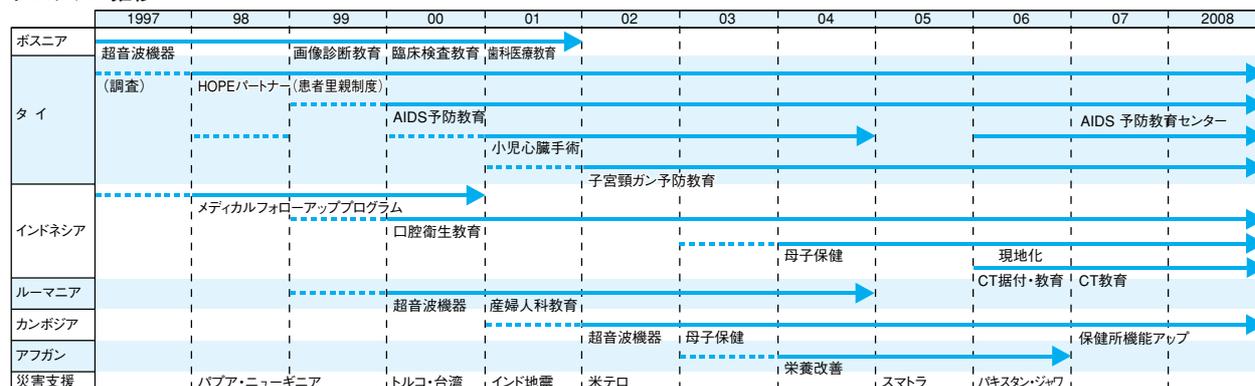


プログラム タイ・インドネシア・カンボジア3国に絞って支援活動を続けています。これら途上国の共通問題は「母子保健教育の不備による妊産婦や乳幼児の死亡率が高いこと」で、PHJは住民への教育を続けています。昨年度タイに設立した「AIDS予防教育センター」はベトナム支援への第一歩と位置付けています。

収入 寄付規模は発足時の2倍になりました。今後は個人会員の増大と企業冠基金を増やしてゆきます。当初多かった商品寄付は中古商品の輸出制限により無理をしないで現金寄付を中心に考えています。一方補助金が種々の問題で最近低迷しています。その問題は一層されましたので今年度から補助金獲得に全力を尽くします。

支出 資金の有効利用を常に考え経費(募金活動費と管理費の合計)を20%以下に抑え、資金の80%以上をプログラムにまわすよう心がけています。すなわち真水部分を多くすることが肝心です。なお無駄を省き一円でも多くの資金を支援にまわすことは当然です。今後は海外要員を充実し各国2人体制を目指してゆきます。

プログラム推移



感謝のリスト ピープルズ・ホープ・ジャパン (2007年9月14日現在)

* ご協力頂いている法人・団体会員(敬称略、50音順)

愛光プラスチック加工所
アイ・ダブリュ・シー
アイ・ライティング・システム
秋山錠剤
上尾中央総合病院
浅田船
あさの
旭化成ファーマ
旭化成メディカル
アサヒビール
味の素
アジレント・テクノロジー
アジレント・テクノロジー 労組
あすか製薬
アステラス製薬
アストラゼネカ
麻生病院
アッデン
アトム・メディカル・インターナショナル
アナログ・デバイスズ
天野エンザイム
アメリカン・エキスプレス・インターナショナル
アラクス
アルフレッド・ダンヒル
アロカテックニカルサービス
いずみクリニック
一誠堂書店
いとう製菓
伊藤忠商事
稲畑産業
イビデン
岩塚製菓
AIG
AIG エジソン生命保険
永生病院
イー・アンド・デイ
イーザイ
エース総合リース
AZE
エスエス製薬
エスピー・パシフィック
NTTファイナンス
FDK
エフレン
エム・アイ・ビー
エンドレスハウザー ジャパン
オイレ工業
大塚製薬
オー・ティ・エス技術サービス
大林組
大豆生田金属
大宮シイロタリークラブ
岡崎製作所
沖電気工業「愛の募金」
オクラ宝石精機工業
小沢医科器械
小野薬品工業
オプティチーネ パネライ
オリエンタルモーター
海外医療機器技術協力会
花王
カガミクリスタル
科研製薬
カシオ計算機
鹿島建設
桂建設
カネボウ
カルティエ
かわでん
北里大学医学部
キッコーマン
キッセイ薬品工業
キッツ
紀文食品
キヤノン
京セラ
杏林製薬
共和電業
協和発酵工業
キリンファーマ
グラクソ・スミスクライン
グランド山形リース
クリナップ
クレハ
クローエ
グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
湖池屋
廣貫堂
甲府紙器
港北出版印刷
向洋電機
興和
国際チャート
コスミック
コメット電機

作間歯科
サクラ精機
佐々総合病院
佐藤製作所
佐藤製薬
佐藤薬品工業
サノフィ・アベンティス
沢井製薬
産経新聞大阪新聞厚生文化事業団
三晃電気
三信電気
三電興業
参天製薬
三和化学研究所
GEキャピタル リーシング
GE航空機エンジン
GEコンシューマー・ファイナンス
GEコンシューマープロダクツジャパン
GESスペシャルマテリアルズ・ジャパン
GEフリートサービス
GEヘルスケアバイオサイエンス
GEヘルスケア・ファイナンス・サービス
GE横河メディカルシステム
GE横河メディカルシステム労組
GERリアル・エステート
ジェムホリマー
シェリング・プラウ
塩野義製薬
シスコンシステムズ
シスメックス
渋田タグボート
渋谷工業
島津インターナショナル
島津製作所
清水建設
ジャガー・ルクルト
商船三井
松竹
昭和アステック
ジョンソン エンド ジョンソン
新川電機
新進
すかいらく
菅沼製作所
杉田製線
住友化学工業
住友商事
住友電気工業
住友電装
スリーエム ヘルスケア
聖マリアンナ医科大学
セガサマーホールディングス
ゼブラ
ゼリア新薬工業
セリモアつくば
千寿製薬
セントジュードメディカル
セントラル硝子
全日空
全日本病院協会
全業工業
ソレキア
第一三共
第一薬品工業
大正製薬
大成建設
大日本住友製薬
大鵬薬品工業
大洋薬品工業
大和証券エスエムビーシー
大和証券グループ
武田薬品工業
竹中工務店
田中三誠堂
田辺製薬
中央電材
中外製薬
中外製薬労組
地球市民財団
ツムラ
ティアック
帝国通信工業
テイクメディックス
帝人
テルモ
電通
電通国際情報サービス
東亜電気工業
東海ゴム
東海ゴム(タイ) Tokai Eastern Rubber
東京医科歯科大学歯学部
東京エレクトロンデバイス
東京海上日動火災保険
東京ガス
東京計装

東京電機産業
東京電力
東芝
東芝GEタービン・コンポーネンツ
東芝GEタービン・サービス
東芝三菱電機産業システム
東芝メディカルシステムズ
東薬薬品工業
東邦薬品
トーマンエレクトロニクス
東陽工業
東レ
トーマエイヨー
トーキン工業
トクホン
トヨタ自動車
戸田中央医科グループ
富山化学工業
鳥居薬品
ナカタニ
ナカノフード建設
ナップ
ナ・デックス
西岡病院
西川計測
日医工業
日揮
日研化学
日本製薬
ニッセン・ジーイー・クレジット
日総工業
日東ベスト
ニノテック
ニプロ
ニプロファーマ
日本化薬
日本経済団体連合会
日本ケミファ
日本コンラックス
日本GEプラスチック
日本シェーリング
日本システム技術
日本新薬
日本生命保険
日本製薬
日本製薬団体連合会
日本ゼネラル・エレクトリック
日本電気
日本電子応用
日本トランスシテイ
日本ビューレット・バックカード
日本ビューレット・バックカード 労組
日本ペーリンガー・インゲルハイム
日本メジフィジックス
日本メドトロニック
ネグロス電工
ノバルティス ファーマ
ノボルディスクファーマ
バイエル薬品
浜製作所
浜松トニクス
パラマウントベッド
ヴァンクリーフ&アーベル
ヴァンシユロン・コンスタンタン
バンダイ
バンドー化学
万有製薬
ピアジェ
日置電機
東山工業
久光製薬
日立製作所
日立メデコ
ファイザー
菱野金属工業
フィリップス エレクトロニクス システムズ
福銀リース
フクダ電子
フジクラ
富士機材
富士ゼロックス
富士電機ホールディングス
富士レビオ
扶桑薬品工業
プリストル・マイヤーズ
古畑病院
プロネクサス
ベネフィット・ワン
ボーム&メルシエ
ホーユー
ポシユロムジャパン
前田道路
松井証券
松下電器産業
松田計装
九石製薬

丸島製作所
丸新プロテック
丸紅
マルホ
三笠製薬
みずほ銀行
三井物産
三菱ウェルファーマ
三菱商事
三菱電機
三菱東京UFJ銀行
ミドリ安全
南九州向洋電機
嶺井第一病院
ミノファージェン製薬
ミミソウ ニューヨーク
武蔵野市
武蔵野陽和会病院
村田製作所
村札精密
名港海運
明治製菓
明治電機工業
明治安田生命保険
メディカルコミュニ
メリー・チョコレートカムパニー
メルシャン
持田製薬
盛岡特機
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン
モルティン・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン 労働組合
モンテグラッパ
モンテローザ
モンブラン
八神製作所
山崎製パン
山武
ヤマト無線
山本商会
UMG ABS
郵船航空サービス
祐徳薬品工業
ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン
洋光電子
養命酒製造
横河グループ福祉センター
横河サーテック
横河シカデン
横河商事
横河情報システムズ
横河制御エンジニアリング
横河デジタルコンピュータ
横河デジタルコンピュータ 労組
横河電機
横河電機診療センター
横河電機労働組合
横河電子機器
横河電子機器 労組
横河電陽
横河東亜工業
横河バイオニクス
横河ビューマンクリエイト
横河フィールドエンジニアリングサービス
横河フィールドエンジニアリングサービス 労組
横河ブリッジ
横河マニュファクチャリング
横河メータ&インスツルメンツ
横河レンタ・リース
ライオン
ラング・アンド・ゾーネ
リコー販売
リシユモン ジャパン
菱洋エレクトロ
ロイヤルホールディングス
ロート製薬
ロジフレックス
ロシユ・ダイアグノスティックス
ワイ・エフ・リーシング
ワイス
ワイ・ディー・シー
ワイ・ディー・シー 労組
わかもと製薬
ワコーエンジニアリング
早稲田大学ラーニングスクエア

合計 368法人・団体

会員のひろば

「共通の生活体験から」

大島陽一(個人会員)

私はPHJの個人会員であるほか、ここ五年ほど、財団法人日本フォスター・プラン協会の評議員をつとめてきました。この協会は、発展途上地域の子どもたちが能力を発揮できる環境を整備する国際活動を主な任務としており、PHJの活動と重なる部分もあるので、充実感を持って仕事を進めております。

私がPHJの会員になったのは、高校時代の友人であり、PHJで熱心に活動しているO君に勧められたからなのですが、揃って七十歳を越したわれわれの仲間に、こうした国際貢献活動を支援する人々が案外多いのです。その理由としてはもちろん、年齢的に時間的余裕ができたということもありますが、もう一つ、われわれの子ども時代の体験が現在の豊かさとは異なり、「発展途上地域の」であったことが挙げられると思います。

終戦前後にかけて、空襲や引き揚げの逃避行で、文字通り生命の危険にさらされた仲間も多くいます。ほとんどの仲間が、「飢え」を経験しました。私自身、蚕のさなぎ、山蛇の干物、笹の実といった、珍妙な食べ物を口にした経験があります。凍える足に藁靴を履いて雪道を通った思い出も忘れられません。現代人の生活感

覚からすると「どん底」に近いこうした経験を共有していることが、われわれの世代にある種の連帯感を与えているのでしょう。それだけに、今一部発展途上地域の、特に子どもたちが味わっている悲惨な状況が、皮膚感覚的に理解できる世代なのではないかと思っています。

私は社会に出てから、中央銀行・都市銀行の行員、大学教員などを経験し、国際取引、国際会議の場も数多く踏んできましたが、その大半は先進諸国の政治経済上の諸問題がテーマでした。しかし、今世紀に入ってから、地球温暖化や環境保全という問題を含めて、先進地域と発展途上地域の共生なくしては人類の未来はないという共通認識が生れてきたように思います。PHJのこれからの活動がこうした共通認識のうえに立ち、ますます発展していくことを祈っております。



2008年カレンダー

恒例の可愛い絵(現地タイ・インドネシア児童と財団法人UFJ国際財団、上海児童医療センター提供)のカレンダーを作りました。お申し込み、お問い合わせは下記事務局まで



サイズ:51.4×36.4cm(使用時)
曆部分の余白が広く予定等を書き込めます



インターンシップ研修生報告



8月から9月にかけて約1ヶ月間PHJでインターンシップをさせていただきました。実習ではNPOやPHJの活動についてだけでなく、ミーティングに参加したり理事会や企業訪問に連れて行っていただく中で、社会一般の事についても学ぶことが出来ました。また事務所で行われている活動をお手伝いさせて頂くことを通して、現地の状況や支援の必要性を知ることができ、大変勉強になりました。

今後はここで学んだことを踏まえ、自分自身の世界を広げ、貢献できるようになればと考えています。

成蹊大学 秋山ゆうき

発行：ピープルズ・ホープ・ジャパン / 発行責任者：須見 彰 / 編集人：三木 巖 / 発行日：2007年10月1日

〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL：0422-52-5507 FAX：0422-52-7035

E-mail：info@ph-japan.org インターネットホームページ：http://www.ph-japan.org

今日からあなたも地球人 個人会員・ホープパートナー会員募集中!

FAX 0422-52-7035

ピープルズ・ホープ・ジャパン 行

個人会員申込書 会費3,000円/年・口× 口 = 円/年

ホープパートナー会員申込書 会費3,000円/月

の中にチェック☑を入れて下さい。

ふりがな

氏名

電話

自宅住所 〒

勤務先

電話

お申込みは、郵送、FAX、ホームページなど、どのような方法でも、結構です。後程送金方法を連絡させていただきます。